



中島 九一式戦闘機学術調査報告・不定期連載その13

九一戦と愛国号

九一式戦闘機は、ときを同じくして始まった献納機運動（民間から軍への軍用機用醸金運動、陸軍は愛国号、海軍は報国号）により、愛国号として親しまれた機種で、多数の九一戦が献納されている。

今回は、これら九一戦の愛国号をとりあげる。

◆九一戦デビューと愛国号

昭和6年（1931年）12月26日に制式化（仮制式）された九一戦は、翌年1月8日の「陸軍始め」でデビューするが、広く一般への披露は、その2日後（1月10日）の愛国1、2号の命名式である。式のアトラクションとして、甲式四型戦闘機2機と九一戦2機（航空技術部の秋田大尉、横山中尉）によるアクロバット展示飛行が披露されている。

また、3月6日には、同じ代々木練兵場で九一戦1機（愛国3号機）を含む愛国「小布施」号3機の命名式が催され、機体も地上展示された。

◆愛国号の九一戦

この「小布施」号を第1号として、合計45機が献納されている（表1・P.88）。

多くの市販書籍などでは43機となっているが、これは昭和9年に献納された2機を含んでいない。

◆命名式

愛国号はその献納に際して、関係者を集めた命名式が行なわれている。式典では神式による祭壇が設けられ、神主の祝詞などの神事後、陸軍大臣（またはその代理）からの命名書の読み上げと感謝状授与が行なわれる。

その後に展示飛行が行なわれることが通常で、その操縦者には、献納団体の同地方出身者が選ばれて、郷土色を高めている。

また、献納関係者や来賓への記念品として、献納記念絵葉書が調製・配布される。この献納記念絵葉書は愛国号毎に作られており、地上と空中の2枚1組が、リーフレットとともに絵葉書袋やタトウに入って、1セットである。愛国17「岡山」号のセットを例として右ページに示す（リーフレットは、後に半分の大きさになっている）。

九一戦の空中姿勢の絵葉書には油絵風のものが、地上姿勢の方には写真から起こしたと思われる絵葉書が使われている。両方とも数パターンあり、愛国号番号と献納者名を修正したものになっている。

◆1機、いくら？

九一戦1機は、いくらくらいの金額で献納できたのだろう。『国防大写真帖』

（昭和9年）では、具体的に、機種が金額とともに明記されている。

- 九一戦、九二偵：7万円
- 八八軽爆、八八偵：8万円

ちなみにこれらの価格はエンジン込みの金額であり、九一戦の7万円のうち、機体とエンジンはそれぞれ3万円程度、あとは機関銃などの装備品で1万円である。

煙草から、現在価値を割り出してみよう。昭和7年当時の口付たばこ「朝日」（20本）は、15銭という値段が分かっている。九一戦は、朝日47万箱弱分に相当する。朝日がマイルドセブンと同等と仮定すると、近年価格（1箱300円）から単純計算すれば、九一戦は1億4,000万円程度になる。

1機120億円ともいわれる国産のF-2支援戦闘機の1%強であるが、当時としては破格な金額であったろうと想像される。

なお、実際には諸経費として、さらに5千円ほどが請求されていた。この費用項目には、命名式開催諸費用や、前述した献納記念絵葉書の調製も含まれている。

◆愛国号の現況（昭和8年4月時点）

陸軍書類に、昭和8年4月調べの『国防献品飛行機現況表』というものがある（表1に付記）。

残念なことに、この陸軍資料からは、愛国37「小布施」号、愛国61「和歌山」号の記載が漏れているが、次が分かる。

- ほぼすべての九一戦愛国号は関東軍、即ち、飛行第11大隊（昭和10年12月、連隊に改編）に配備されている
 - 事故機は継承されているはずであるが、そのことは記載されていない
- なお、ここでいう「継承機」とは、次の通達によるものである。

「国防献品飛行機標記の存続に関する件通牒」

（昭和7年12月14日 陸普第七三四〇号）

一、国防献品飛行機を記念するためその補充に用いられたる飛行機には、愛国第何号（原番と同一番号）なる標記（個人、団体または地方名の名称を除く）を継承せしむ

二、前号に依る愛国第何号なる標記の継承は、該当飛行機の機種を改変せらるる時期を以て打ち切るものとす

三、国防献品飛行機の保管部隊は該飛行機廃品となりたる際、これを補充すべき飛行機に前各号及び国防献品飛行機の標記に関する規程により標記をなして、これを履歴に記録するものとす

四、保管部隊が前号により標記をなしたる場合は、直ちに順序を経て陸軍大臣及び陸軍航空本部長に報告、もしくは通報をなすものとす

時期的には表1中の事故機は、他機へ継承されているはずなのだが、外地部隊では実施が遅れていたのだろうか。

◆愛国号の消息

献納後の愛国号の消息は、不明なのがほとんどであるが、九一戦の愛国号に関しては、比較的消息が判明している例が多い。判明している消息の多くは、廃兵器（現代風にいえば、用途廃止）であるが、当時の機体の扱い方がうかがえて、興味深い。

カッコ内は命名式期日と場所を示す。なお、明記ない限り、世代は明らかにできていない。

愛国3「小布施」号(S7.3.6、代々木練兵場)

13年4月、廃兵器検定。再用部品採取のうえ、売却。

愛国7「群馬」号(S7.3.8、高崎)

13年9月、廃兵器検定。愛国77「三越」号とともに、再用部品採取のうえ、金属は鋳物材料として売却。

愛国8「川喜多」号(S7.4.3、津)

飛行第11連隊所属中の11年1月13日、着陸の際、左車輪を折損。左脚に装着されている三号機上電機器具（発電機）の廃兵器検定書がある。

愛国9「河野」号(S7.4.10、代々木練兵場)

献納者である河野 義氏が応召し、上海に転属した際、自らの献納機に乗り込む写真がある。

愛国17「岡山」号の献納記念葉書セット



愛国岡山號の雄姿

陸軍省

愛國第十七(岡山)號 (戦闘機)

一、本機ハ主トシテ晝夜ニ於ケル制空及掩護ニ使用シ機關銃ヲ以テ空中戰闘ヲ爲スモノトス

二、本機ハ外方支柱ヲ有スル高翼式單葉ノ金屬製單座機ニシテ主翼外面ハ羽布張ナリ

三、本機ノ主要諸元概ネ次ノ如シ

全幅	約一三米
全長	約七米二〇〇
全高	約三米一〇〇
主翼面積	約二〇平方米
全備重量	約一五五〇〇
飛行性能	三〇〇浬以上
水平速度	約十浬以内
高度五千米へ上昇時間	一基
使用發動機	
ジュ式四五〇馬力	
星型九氣筒空冷式	




愛国14「若越」号(S7.4.29、鯖江)

12年9月、廃兵器検定。再用部品採取のうえ、売却。

愛国17「岡山」号(S7.4.24、姫路)

(初代：製造番号128号)
10年10月、廃兵器検定。愛国23「中学生」号(八八軽爆)とともに、再用部品採取のうえ、軍にて処分。

(2代?：製造番号261号)

11年5月、飛行第11連隊において261号を充当し継承。

その261号「岡山」号も、12年1月、廃兵器検定、愛国113号とともに地上教育用としての使用に充当。この原因となった事故と推察される写真が残されている(写真1)。



写真1. 廃兵器になった理由と推察される衝突事故(出射利明氏提供による)。



写真2. 献納者団体名が記入されていない愛国24号。継承機の可能性もある。

愛国24「三井鉱山」号 (S7.6.19、所沢)

10年4月、廃兵器検定。教育用として軍において使用。

なお、残されている本機の写真には、献納者団体名が記入されていない。継承機の可能性がある(写真2)。

愛国27「千葉」号 (S7.5.21、下志津)

(初代：製造番号133号)

7年10月24日、ハルピン上空での訓練中に僚機と衝突し、墜落。操縦者は、パラシュート降下して無事。

(世代不明：製造番号169号)

11年12月、廃兵器検定。

愛国29「北海道」号 (S7.6.24、札幌)

飛行第11大隊所属中の8年1月9日、飛行中に僚機(愛国63「満洲」号)と空中衝突し、両機の操縦者とも殉職。

愛国34「浜田」号 (S7.4.24、姫路)

8年11月、廃兵器検定。地上教育用に充当。

愛国38「京都」号 (S7.6.26、京都)

10年7月、廃兵器検定。再用部品採取のうえ、軍にて処分。

愛国39「信濃」号 (S7.7.17、上田)

9年5月、廃兵器検定。再用部品採取のうえ、軍にて処分。

愛国41「愛媛」号 (S7.7.24、愛媛)

飛行第11大隊所属中の10年11月19日、射撃訓練中に発動機停止、不時着時に転覆。

11年1月、廃兵器検定。再用部品採取のうえ、軍にて処分。

愛国47「大分」号 (S7.10.14、大分)

(初代：製造番号168号)

命名式後の県下一周飛行に離陸するも、天候不良により断念。その着陸時に転覆、プロペラと尾翼を破損。

愛国48「佐賀」号 (S7.10.13、佐賀)

9年9月、廃兵器検定。地上教育用に充当。

愛国51「新潟」号 (S7.9.11、新潟)

(初代?：製造番号161号)

新潟市営飛行場での命名式後、横山中尉(新潟県出身)により県内披露飛行を行なったところ、不具合を生じ修理。今川一策大尉(新潟市出身)によるその試験飛行の着陸時、砂中に車輪を突っ込み逆立ち、プロペラや方向舵を大破。大尉は軽症を負い、機体は所沢での修理のため、分解・陸送。

命名式の様子を伝える新聞では「新潟県の3文字の胴体書き」とあるが、残っている写真では「新潟」号になっている。修理後に「新潟」に書き換えられた、または別機になった可能性がある。

愛国52「新潟縣」号 (S7.10.20、高田)

(初代：製造番号162号)

飛行第11連隊所属中の12年9月、廃兵器検定。再用部品採取のうえ、売却。

愛国54「岐阜」号 (S7.9.18、各務原)

11年4月、廃兵器検定。再用部品採取のうえ、軍にて処分。

愛国55「秋田」号 (S7.10.12、東雲)

10年4月、廃兵器検定。再用部品採取のうえ、軍にて処分。

愛国58「小倉」号 (S7.11.28、小倉)

(2代?：製造番号153号)

8年11月、廃兵器検定。再用部品採取のうえ、軍にて処分。

愛国61「和歌山」号 (S7.10.16、姫路)

(初代：製造番号170号)

飛行第11連隊所属中の10年11月5日、満洲での演習中、着陸時に転覆・大破。11年1月、廃兵器検定。再用部品採取のうえ、軍にて処分。

(2代?：製造番号601号)

11年5月、飛行第11大隊において、九一戦601号機を充当して継承、と報告書がある。

愛国63「満洲」号 (S7.11.27、新京)

(初代?)

飛行第11大隊所属中の8年1月9日、飛行中に僚機(愛国29「北海道」号)と空中衝突し、両機の操縦者とも殉職。

愛国69「富国」号 (S8.3.10、代々木練兵場)

9年5月、廃兵器検定。再用部品採取のうえ、軍にて処分。

愛国73「東京瓦斯」号 (S8.3.10、代々木練兵場)

(初代：製造番号254号)

6月8日、奉天野戦航空廠での試験飛行中、発動機が脱落、墜落大破。(操縦者は無事)

愛国77「三越」号 (S8.5.14、代々木練兵場)

13年9月、廃兵器検定。愛国7「群馬」号とともに、再用部品採取のうえ、金属は鋳物材料とし、他は売却。

愛国78「日清紡」号 (S8.5.14、代々木練兵場)

(初代? : 製造番号517号)

12年9月、廃兵器検定。再用部品採取のうえ、売却。

愛国86「産業協同第一」号 (S8.5.7、大阪)

飛行第11連隊所属中の11年2月15日、燃料タンクの空気抜孔の凍結閉塞により、飛行中に発動機停止し、不時着。

12年9月、廃兵器検定。再用部品採取のうえ、売却。

愛国87「佛立」 (S8.5.7、大阪)

(初代?)

飛行第11連隊、臨時派遣飛行隊所属中の11年4月13日、ハイラル飛行場より離陸・上昇中に発動機が停止。飛行場に不時着する際、転覆しプロペラを破損。

(2代? : 製造番号517号?)

12年9月、廃兵器検定。再用部品採取の上、売却(筆者注: おそらく、愛国78と愛国87が軍書類上で混同されている)。

愛国88「通運」号 (S8.7.26、代々木練兵場)

10年4月、廃兵器検定。再用部品採取のうえ、軍にて処分。



写真3. 文字の小さな例。
愛国13「石川」号。



写真4. 文字の大きな例。
愛国29「北海道」号。

愛国90「第二千葉」号 (S8.8.2、下志津)

(初代?)

10年5月、廃兵器検定。再用部品採取のうえ、軍にて処分。

(2代? : 製造番号330号)

11年4月、廃兵器検定。再用部品採取のうえ、軍にて処分。

愛国111「大学高専」号 (S9.3.23、代々木練兵場)

飛行第11連隊所属中の11年3月31日、ハイラル飛行場を離陸後、滑油温度上昇により近くの飛行場に不時着、転覆。

愛国113「産業協同第二」号 (S9.4.22、

所沢)

(2代? : 製造番号597号)

12年1月、廃兵器検定。愛国17号とともに地上教育用として使用。

◆愛国号の標記

愛国号の「愛国」の字体には、次の2つが知られている。

1つは、小さい書体のもので、昭和7年4月中に命名式が行なわれた、愛国3「小布施」~18「第十師管山陰」までが該当する(写真3)。一方、愛国24「三井鉱山」号からは大きい書体になっており、字体も異なっている(写真4)。

愛国号番号は、主翼上下面と胴体左右両面に標記され、数字の書体は通常機体のもと同じである。

胴体の愛国号番号には、カッコ付きで献納者名が続く。●を日章として、胴体左面では「愛国●12(いろは)」と左読みであるが、右面では「(はろい)12●国愛」と右読みとなる。ただし、愛国号番号だけは、左読みのままとする。

また、継承機では献納者名のない、「愛国●12」標記となる。

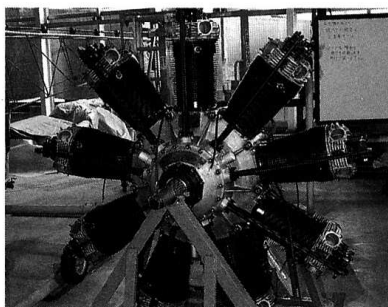
◆まとめ

九一戦は420機以上が生産されているが、そのうちの1割以上(45機)を愛国号が占めている。これは、九二戦(5機)に比して、圧倒的に多い。

九一戦は、創始期の愛国号を代表する機種といえるだろう。

(文責: 横川裕一)

●ジュピター・エンジン一般公開のお知らせ



NPO法人「航空復元懇話会」が所有する九一戦用のジュピターVI型エンジンの修復作業がほぼ完成し、このたび都立産業技術高等専門学校(航空高専)の協力を経て、下記要領での一般公開が決まりました。歴史的貴重さに加え、非常にきれいな状態の同種エンジンは世界でも珍しい存在です。また、復元中の主翼のリブ、車輪も展示します。この機会に是非、ご覧ください。

●日時: 3月31日(土) 13:00~15:00(時間厳守)

●場所: 都立産業技術高等専門学校荒川キャンパス(航空高専) 科学技術展示館

●アクセス: JR常磐線・つくばエクスプレス・東京メトロ日比谷線の南千住駅下車徒歩12分。南千住駅東口から都営バス「上野松坂屋前」行き乗車8分、「都立航空高専前」下車徒歩1分。東武伊勢崎線鐘ヶ淵駅下車徒歩20分。

●その他: 1. 東京都の規定により、入館時に記名が必要。

2. 科学技術展示館内での飲食は禁止、敷地内は全面禁煙。

3. ジュピター・エンジンの写真撮影はOK。

4. 航空機やエンジンなど、館内の常設展示品も見学可能。